木帶邊ニ至ルト小形トナッテ良品ハ得ラレヌ凡テあざみハ葉緣ノ刺ガ皮膚ニ痛ミヲ感ジサセルヨウニナルト食用ニ供サレナイガソレデモ林間ヤ陰地生ノモノハ比較的伸長シテモ賣品トナル普通ハ一尺二三寸マデノモノガ用ヰラレル大正六年ノ相場ハ百本十錢位デアッタ

〔食法〕　三四寸ノモノハ嫩キ莖葉全部ヲ用ヰ一尺内外ニ伸長スルト主トシテ莖部ヲ用ウ、嫩苗ヲ煠キ細切ニシテ味噌汁ニ造ル殆ド春ニ於ケル常食デアル、嫩キ莖ヲ鮮魚ト共ニ醬油ノ煮漬トスル、又單ニ煮漬トシテモヨイ同ジク莖部ヲ鹽漬トスル、甘漬ヲ造ルニハ米飯ヲ擂ッテ糊狀トナシ切斷シタ莖ヲ投ジ鹽ヲ加ヘテ漬ケル

尚ホ此他山地ニ於テ直接生食ニ供サレルしゝうど（方言えぞによ）Angelica polyclada FRANCH. はなうど（方言あまによ）Heracleum lanatum MICHX. すいば又すかんぽ（方言だやす）Rumex Acetosa L. のびる（方言さもと又のゝしろ）Allium nipponicum FRANCH. ET SAV. 等ノ野草モアルガ廣ク用ヰラレテ居ナイカラ略スル（完）

○斷枝片葉（其五）

牧野富太郎

●へちまノ名義　物類稱呼ト云フ書ガアル其卷ノ三ニへちま即チ絲瓜（漢名）ニ就テ左ノ如キ事ガ書イテアル『へチマ○信濃ニテとうりト云薩州ニテながうりト云とうりハ絲瓜（いとうり）ノ上略ナルベシ或人ノ曰へちまトイフ名ハとうりヨリ出タリ其故ハとうりノとノ字ハいろはノへノ字トちノ字ノ間ナレバへちノ間トイフ意ニテへちまトナヅクルトゾ云々』大槻氏ノ言海ニハ『へチマ　絲瓜　蠻語ナリト云、詳ナラズ、或云、絲瓜（イトウリ）ヲ約メテ、とうりトモイフ、とハ伊呂波歌ニテ、へトちトノ間（マ）ナレバイフト、强牽ナラム』ト書イテアル

●からすうり　支那ニ王瓜ト云フモノガアッテThladiantha dubia BUNGE.ノ學名ヲ有スル我邦信州追分邊ニ此瓜ガ自生シテ居ッテ前年始メテ理學士大渡忠太郎君ガ採ッテ松村任三博士ガ此レニおほすゞめうりノ新和名

ヲ與ヘ植物學雜誌デ公ニセラレタコトガアル、此信州ノ品ハ無論固カラノ自生デハアルマイト思フ然シ其渡來ノ歷史ハ一向ニ吾人ニハ分ッテ居ナイガ今日兎モ角モ此レガ其地ニ自生ノ姿トナッテ居ルコトハ頗ル面白ク感ズル、從來我邦ノ本草家ハ此王瓜ノ實物ガ分ラナイノデ之レヲからすうり（Trichosanthes cucumeroides MAXIM.）ダト思ヒ即チからすうりノ漢名ハ王瓜デアルト呑ミ込ンデ居ッタ然シ是レハ誤デアッタ本草綱目ヲ見ルト王瓜ノ花ハ「五月黃花ヲ開ク」又「六七月五出ノ小黃花ヲ開キ簇ヲ成ス」（共ニ漢文）ト出テ居ル此花ノ記事ナドデ見テモ王瓜ガからすうりデナイ事ガ分ル、前述ノ通リ我邦デハ此樣ニ王瓜ガからすうりトナッテ居ッタモノデアルカラ其王瓜ノ一名ナル老鴉瓜ノ名並ニ「子熟スレバ則チ色赤シ鴉喜ンデ之ヲ食フ故ニ俗ニ赤雹老鴉瓜ト名ヅク」（漢文）ト云フ文ニ基イテ此植物ヲからすうりト呼ンダモノデアル、アノ樣ニ赤キ果實ヲ結ブモノヲ色ノ黑キ鳥ノ名ヲ取テからすうりトハドウ云フ譯デ名ケタカト思ヒ調ベテ見レバ前述ノ如クデアル、又からすうりヲたまづさ（玉章）或ハむすびじゃう（結ビ狀）ト云フノハ其蟷螂(かまきり)ノ頭ノ狀ヲ呈セル種子ガ結ビ文(ブミ)ニ似テ居ルカラサウ謂ッタモノデアル土佐デぐどうじト云フノハ正ニ此からすうりデアッテきからすうりデハナイからすうりハ香港(ホンコン)ニハアルラシイガ支那ノ內地ニハ產セヌ樣デ從テ其漢名ガ見ツカラナイ

●伊豆七島ノへんごだま　七島內ノ御藏島(ミクラジマ)ニ方言へんごだまト呼ブ者ガアル島ノ山地ニ自生スル天南星(てんなんしゃう)一種ノ球莖デアル晩秋葉枯レ球莖充實スル頃島ノ役場カラ島民ニ三日間堀リ採リノ許可ヲ與ヘル島民ハ其球莖ヲ煠デテ皮ヲ去リ臼デ搗テ餅ノ樣ニシ砂糖或ハ黃粉(きなこ)ヲ附ケテ食スル粘リガ強ク頗ル美味ノ由島民ハ又往々畑ニ作テ居ル全草鮮綠色デ粗大ナル葉柄莖ノ下部ハ大ナル鞘ニテ包マレ葉ハ鳥趾狀ニ分裂シ綠苞中肉穗軸ノ上部ハ鞭狀ニ伸ビテ紫色ヲ呈スル私ハ之ニ Arisaema Negishii MAKINO. (n. sp.) 並ニしまてんなんしゃうノ新名ヲ命ジタ其記文ハ次號ノ本誌ニ見エル、又同島ニ方言山蒟蒻(やまこんにゃく)ガアル內地ノ蒟蒻(こんにゃく)ト同樣其球莖ヲ食品ニ製スル私ハ之ニしまこんにゃく並ニ Amorphophallus shichitoensis MAKINO. (n. sp.) ノ新名ヲ與ヘタ記文ハ近ク公表スル